

神の作品であり、人間の作品である聖書



<https://lumen-christi.com/seishotebiki/>

聖書は、一冊の本に見えますが、実際には73冊の文書を一箇所に集めている「図書館」のような書物です。聖書の中に入っている一番古い文書は、紀元前10世紀に書かれたものです。一番遅い段階で書かれた文書は、西暦1世紀のものであります。

● 神の作品

「尊き母なる教会は、旧約および新約の全部の書とそのすべての部分を含めて、使徒的信仰に基づき、聖なるもの、正典であるとしています。なぜならそれらの書は、聖霊の靈感によって書かれ、神を作者とし、またそのようなものとして、教会に伝えられているからです」

(第2コンスタンチノーブル公会議)。

● 人間の作品

「神は聖書を作り上げるにあたってはある人々を選び、彼らの才能と能力を利用しつつ採用したのである。こうして、神が彼らのうちで彼らを通して働くことによって、彼らは真の作者として、神が欲することのすべてを、またそれだけを、書き物によって伝えたのである。」(『啓示憲章』11)

● 人間の言葉となられた神の言葉

「かつて永遠なる父のみことばが、人間の弱さをまとった肉を受け取って人間と同じようなものになったのと同様に、神のことばは人間の言語で表現されて人間のことばと同じようなものにされた。」

(『啓示憲章』31)

「靈感によって書かれた書は、真理を教えます。」(カテキズム107)

「それゆえ、靈感を受けた作者すなわち聖書記者たちが主張していることはすべて、聖霊によって主張されているとしなければならない。したがって、聖書は、神がわれわれの救いのために聖なる書として書き留められることを欲した真理を堅固に忠実に誤りなく教えるものと公言しなければならない」(『啓示憲章』11)。

- ☆ 聖書を正しく理解し、聖書の言葉によって生かされるためには、聖書の最も根本的な特徴、つまり、聖書は、神の作品であると同時に、人間の作品でもあるという性格を常に意識しなければなりません。
- ☆ 神が聖書の作者であるとは、聖書の内容、つまり聖書が伝えている真理、救いのために必要な、普遍的な真理は、神によって決められたということです。
- ☆ 人間が聖書の作者であるとは、この真理を伝える方法、つまり表現の形式、文学的な形などは、人間が決めたということです。

2. 神の言葉である聖書

どうして、聖書の73冊すべてが本当に神の言葉であるという確信を持つことができるのでしょうか。

● 神の自己啓示

📖 「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。」（ヘブ1、1 - 2）

● 旧約聖書の形成

- ✧ イスラエル人が体験した神の働き、特にエジプトから解放されたことやシナイ山で神と契約を結んだことは、まず数百年の間に口頭で次の世代に伝えられました。やがて凡そ紀元前10世紀から、口伝された諸伝承が少しずつ文書化されています。
- ✧ 紀元前8世紀から6世紀の間、多くの預言者たちが活躍し、過去や現在の出来事の中で見出した神のメッセージ、いろいろな教えや警告や導きを告げました。言葉を自ら書き記す預言者もいましたが、多くの場合は、彼らの弟子や後の人が預言者の生涯や彼らが宣べた言葉を書き記しました。
- ✧ 国家を失う経験をしたイスラエル人は、捕囚からパレスチナに戻った時、民族のアイデンティティを再認識し、それを保ち、次の世代に伝える必要を感じました。そのためユダとイスラエルの王たちの歴史、いろいろな資料に書き記されていた捕囚前の歴史、エルサレムの物語、また、捕囚時代の物語をまとめ、必要に応じて文書化し、いろいろな資料や様々な伝承を合併し、再編集しました。
- ✧ こうして、預言書の作成は、紀元前6世紀までに終わり、モーセ五書は紀元前5世紀に完成しました。その後、ダニエル書やマカバイ記を含む、いくつかの文書が記され、紀元前1世紀に、旧約聖書の最後の書「知恵の書」が書き記されました。要するに、旧約聖書の一番古い文書が書かれてから、最後の文書が書かれるまで、実に1000年以上がかかったわけです。

● 新約聖書の形成

- ✧ 神の自己啓示の頂点として、「神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れで」（ヘブ1、3）あるイエス・キリストの生涯、特にパレスチナにおけるイエスの行動と教え、キリストの死と復活がありました。
- ✧ 復活後にイエスは、使徒たちにご自分の教えをすべての人々に伝えるように命じ、彼らを全世界に派遣されました（マコ16,15; マタ28,19-20; マタ24,14; 使1,8）。

使徒たちは、様々な状況に置かれている、いろいろな人々にイエスの福音を宣べ伝えたので、聞く人々の誰もが理解できるように、必要に応じてイエスの教えを聞いたとおりにではなく、また、イエスの行いを見たとおりに伝えたのではなく、それを適宜に編集、適応化しました。

📖 「ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった」（使2,41-42）。

- ✧ 当時の宣教は、主に口頭で行われました。その頃キリストの行いや教えについての文書も書かれたようですが、後に新約聖書に収められる書簡という形の文書が、西暦50年代に入ってから、聖パウロによって、書かれました。

- ◇ **福音書**は、書簡の形式をとっていないとは言え、実際には、書簡と同じような目的のために作成されました。

初代教会の諸共同体には、新しい、つまりイエスが活動をなさった時にはなかったような、疑問や問題や困難が生じていました。そのために、福音記者たちは、自分たちの共同体のこのような疑問や問題や困難に対処しようとして、イエスの教えやイエスが示してくださった模範に基づいて、必要と思った教え、励ましや導きなどを与えようとしていました。

福音記者たちは、各共同体の状況や必要に応じて、使徒がしたようにイエスの教えを適応化したのです。福音記者たちは、それぞれ異なる現状にあって、異なる問題や困難に直面していた共同体のためにその福音書を書きましたから、そして彼らは一人ひとり、性格とか生まれ育った環境や受けた教育も異なり、イエスの教えや神学の課題に関する好みも異なっていましたから、同じイエスの生涯と教えを基にしているにもかかわらず、結果的には異なる福音書を作成するに至ったわけです。

● 使徒たちと司教たちの権威

☞ 「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」 (ヨハ20,21)

- ◇ 聖パウロは、1世紀のキリスト者の意識を表して、使徒たちについて、次のように語ります。彼らは、「新しい契約に仕える資格、文字ではなく霊に仕える資格」 (2コリ3,6) 神から与えられた者、「キリストの使者の務めを果たしている」 (2コリ5,20) 者、「キリストに仕える者、神の秘められた計画をゆだねられた管理者」 (1コリ4,1) である、と。
- ◇ 使徒たちは、この権威を、彼らが任命した自分たちの後継者に伝えました。
- ◇ 使徒たちは、キリストご自身から与えられた権威、また、彼らが司教たちに伝えたこの同じ権威は、教えの正しさを決定するものであったと同時に、聖霊の靈感によって書かれた文書、つまり、どのような書が神の言葉で、聖書に属するものであるかということを識別する権威でもあったのです。

● 新約聖書の正典化

- ◇ 初代教会のキリスト者は、ユダヤ人と同じように、「**正典的な意識**」、すなわち、彼らが持っていた特定の文書が、彼らのキリスト者としての生活の規範となっているという確信を持っていました。

☞ 「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です」 (2テモ3,16)。
- ◇ 2世紀の前半に、多くの場合司教でもあった教父たちは、自分たちの共同体のために、正典と認めた文書のリストを作り始めます。
- ◇ 新約聖書の27書の正典は、393年のヒッポンの教会会議と397年のカルタゴ教会会議において、教会を代表して集まった司教たちによって承認されました。その後、多くの教皇と公会議によって再確認されます。
- ◇ **新約聖書の正典化の基準**
 - 第一の基準：文書の使徒性
 - 第二の基準：文書の普遍性
 - 第三の基準：正統性
 - 第四の基準：典礼においても用いられること

● 旧約聖書の正典化

◇ ユダヤ教の聖なる書物の三つのグループ：

1. モーセ五書
2. 預言書
3. 諸書

- ◇ 1世紀の時点では、ユダヤ教の正典がまだはっきりと決められていませんでしたが、西暦70年にエルサレムの神殿が破壊されたために、聖書の正典を正式に決める必要性が生じてきた。
- ◇ ラビたちの諸会議の結果、2世紀末から3世紀初めごろに、ヘブライ語やアラム語で書かれた39の文書が聖書と認められました。しかし、ギリシア語で記された7つの文書（トビト記、ユディト記、知恵の書、シラ書、バルク書、マカバイ記一、マカバイ記二）は、聖書として認められず、正典に入りませんでした。
- ◇ 39の文書が公に認められるようになっても、その中のいくつかの文書については、まだ5世紀まで議論され続けました。

- ◇ 2世紀の終わりごろにユダヤ教のラビたちによって正典から外された7の書は、1世紀のユダヤ教の中で、どのように評価されていたかは分からなくても、キリスト教が最初からこれらの文書を旧約聖書の他の文書と同じように、権威のある書として用いていたということは確かです。
- ◇ 初代教会は、ユダヤ人たちが2世紀の終わりに除外した7つの文書を含む、46の文書を聖書として、382年のローマの教会会議、393年のヒッポン教会会議、397年のカルタゴ教会会議において、正式に承認しました。

LXX (Septuagint)

七十人訳聖書（しちじゅうにんやくせいしょ、羅：Septuaginta, 「70」の意。LXXと略す）は、ヘブライ語のユダヤ教聖典（旧約聖書）のギリシア語訳であり、紀元前3世紀中頃から前1世紀間に、徐々に翻訳・改訂された集成の総称を言う。

ラテン語読みであるセプトゥアギンタとも呼ばれる。Septuagintaの由来については諸説あるが、旧約偽典のアリステアスの手紙の伝える、プトレマイオス2世フィラデルフォスのため、72の訳者が72日間で「律法」（モーセ五書）の翻訳をなしたという伝説によるという説が有力である。